

発刊のことば

高度情報化社会を迎え、生涯学習の必要が強調されるなかで市の情報センターとして、市民の生涯にわたる自己学習を援助し、生活課題の解決と文化の進展に寄与する図書館づくりに努めます。

うるま市には中央図書館、石川図書館、勝連図書館の3館があります。合併後導入された3館統一の図書館システムも軌道に乗り、市民はこの3館の任意の窓口で、どこでも同じ充実したサービスを受けることができます。

この3館をより有効的な利用ができるようにするため、中央図書館は調査・研究に対応できる図書館として、石川図書館は市民に親しみやすい郷土関係の資料の充実した図書館として、勝連図書館は児童用の資料の充実した図書館として、それぞれの整備目標を持って図書館サービスの向上を図っています。

市民の調査研究に役立つ参考図書を幅広く収集し、問題解決に向け資料提供等の支援を行います。

図書資料の他、視聴覚資料や新聞、インターネット等を駆使して、レファレンスサービスの充実を図ります。

他の図書館との相互貸借制度に加わっており、本市に蔵書していない本であっても他の図書館から借入して市民のニーズに応える体制をとっています。

未所蔵の図書の購入をリクエストとして受付け購入できるものは購入し市民の要望に応えるようにしています。

児童書・絵本・紙芝居等資料の充実を図っていきます。また、図書館行事として定例のおはなし会のほかに、生涯学習の一環として役立つ講座や絵本・紙芝居の読み聞かせ方法を学ぶための講座、人形劇などの事業も行っています。

団体貸出の充実強化を図るため、1団体に100点（本以外に雑誌20点・紙芝居20点可）の貸出をし、貸出期間も1ヶ月と長くしています。

うるま市立図書館の3館には約38万5千点の資料があり、幼児から熟年まで多くの市民が訪れて、学習・調査・研究のため利用しています。月平均で延べ約20,000人が図書館を利用しており市民がもっとも良く利用している施設です。

これからも文化のまちづくりに貢献できるよう職員一同一丸となって市民のニーズに応える体制づくりをし、より充実した図書館サービスを実施していきます。関係各位のご支援をお願い申し上げ発刊のことばと致します。

館長 伊波 正和